

M2 閉塞の血管径が機械的血栓回収療法の治療成績に与える影響

◆研究の目的と概要◆

当院では、中大脳動脈の中血管閉塞による急性期脳梗塞に対し血栓回収療法と呼ばれる急性脳動脈閉塞に対する血管内治療を受けた患者さんにおいて、閉塞血管径と血栓回収における治療効率や臨床転機の影響を調べています。本研究では、血栓回収療法の問題点やリスクを把握し、リスクベネフィットを考慮した血栓回収療法の確立を目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020 年 1 月から、2024 年 12 月までの間に、当院で急性期中大脳動脈の中血管閉塞による急性期脳梗塞と診断された方に対して血栓回収療法を施行された患者さんが対象となっています。

◆研究に使用される情報・試料◆

年齢、性別、手術施行日、術前の生活自立度、脳梗塞の重症度、既往歴、嗜好歴、搬送経路、閉塞血管、閉塞血管径、脳血管閉塞の病型、術前と術後の CT と MRI、術後の頸動脈および心臓超音波検査、血液検査所見、アルテプラゼ投与の有無、カテーテル治療に用いた血栓吸引カテーテルもしくはステント型血栓除去デバイス、複合手技の内容、手技の血管撮影所見、手技に関連する時間（手技前時間、手技時間、手技開始から有効再開通までの時間）、血栓回収療法の治療経過、合併症の有無、90 日後の生活自立度

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 10 月 25 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録と画像所見からの情報を用いて実施します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

脳神経外科 研究責任者 横地 泰徳

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明